

	ご質問	回答
①	EPDHubは、その他のEPDやCFP（経産省・環境省のガイドラインに基づいて算定したもの）と何割程度違うのでしょうか？	EPD Hubとその他EPDラベルの間で、算定に使用するデータベースやPCR(製品カテゴリールール)が異なる為、一概に何割違うと申し上げられません。  但し、EPDは一般的にISO21930やEN15804などの国際規格に準拠し、各EPDプログラムのGPI（一般プログラム規約）やPCR（製品カテゴリールール）に基づいて算定を行う点で統一化された基準があります。EPDとCFPの違いについては、質問⑤を参照下さい。
②	資料23ページ目の利用料金はEPDジェネレータのみの利用料金でしょうか。実際の合計費用としてはEPD Hubに対しても登録料や維持費の支払いが必要になるのでしょうか？	資料23ページに記載している料金には、EPDジェネレータのライセンス料金だけでなく、EPD Hubに対する登録料や5年間の維持費（EPD Hubではこれらを合わせて「検証公開費用」と呼びます）、住友林業によるサポート料金も全て含んでおります。取得後5年間の有効期間中は、データの更新等を行わない限り、特に追加費用は発生しません。 ※検証公開費用については、取得製品によって異なりますので、詳細は個別にお問い合わせください。
③	汎用データは何由来ですか？	当社がサポートするEPD Hubでは、汎用データはEcoinventを利用しています。
④	海外のEPD取得件数はどれくらいでしょうか？また、その内訳も教えていただけないでしょうか？	EcoPlatform ホームページによれば、2024年1月の時点で、EN規格準拠のEPDが約23000件、ISO準拠のEPDが約65000件です。 （参照： <a href="https://www.eco-platform.org/epd-facts-figures.html">https://www.eco-platform.org/epd-facts-figures.html</a> ） 当社がサポートしているEPD Hubでは、2025年6月末時点で3,286件のEPDが公開されています。 国別の取得件数については、統計資料が無く、比較は難しいですが、既に規制が進んでいるヨーロッパやアメリカが大部分を占めているかと思えます。ウェビナー資料14ページにもあります通り、日本のEPDは2025年5月19日時点で419件（当社調べ）ですので、まだまだEPD件数が不足しているのが現状です。
⑤	EPDは包括的な環境情報を提供する仕組みとありますが、どのようにCO2以外の多領域評価をしているのでしょうか？	EPDは活動量に原単位を掛け合わせて算定を行います。 この時に掛け合わせる原単位が、CO2だけでなく様々な環境負荷情報を含んでいるため、多領域の評価を行うことができます。CFPの算定では、同じ原単位の中から「気候変動」の情報だけを抜き取って計算を行うため、GWPのみの算定結果が表示されます。
⑥	LEED認証を目指す理由とメリットは何でしょうか？	LEEDが選ばれる理由をグリーンビルディングジャパンがホームページに掲載しています。 （参照： <a href="https://www.gbj.or.jp/leed/about_leed/why-leed/">https://www.gbj.or.jp/leed/about_leed/why-leed/</a> ） 建築物のパフォーマンスが出ることの証明、ライフタイムにわたってのリターン等が紹介されています。 米国の例では、テナントビルの集客力向上、税制・都市計画上の優遇が上げられています。 また、これまで登録された約330件のプロジェクト情報も公開されており、一定のトレンドを確認することもできます。
⑦	CASBEE評価認証とEPDの関連は何かありますか？	CASBEEにおいてEPDを直接評価する項目は存在しません。 一方でCASBEEではCO2排出量について標準計算ではなく、個別計算を行えば、EPDの数値を計算に用いることが可能です。